

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

保護者及び地域住民等が一定の責任を持って学校運営へ参画し、学校教育活動の充実に向け、学校、保護者及び地域住民等が協働し、「学校づくりビジョン」の実現を図ります。

そのために、本校の運営協議会は、「生徒の実態を把握し協議する」「学校教育活動を地域に広める」「生徒と家庭との関わりを深める」「生徒と地域の関わりを深める」の4つの視点で活動を行います。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践例

①生徒の実態を把握し協議する

本校の運営協議会は今年度も4回の会議を計画いたしました。各委員には会議開催時での授業の参観及び体育祭や文化祭などの学校行事の参観を通して、生徒の実態を把握していただきました。

その後の協議で、生徒が落ち着いて授業を受けている様子やタブレットを使用した授業の様子、学校行事で一生懸命に取り組む姿に、とても良い評価をしていただきました。また、本校の生活アンケート等の結果や地域からの情報等から、学校の教育活動・経営等の状況について客観的な評価をいただくとともに、学校に対しさまざまな角度から助言をいただきました。



【授業参観】



【体育祭】



【文化祭】

②学校教育活動を地域に広める活動

運営協議会の委員の方々には年間を通して、学校教育活動に参加したり、見学したりすることにより、生徒や教職員の様子を知り、教育活動の内容を理解していただいています。今年度は、中学校でも開始された給食を実食していただきました。そして、その情報を地域の各種団体や地域の方々に発信していただいています。併せて、地域における生徒の様子や地域の行事、取組に参加する生徒の様子を把握し、その情報を学校と共有していただいています。「学校の応援団」としての役割を果たしていただき「地域とともにある学校づくり」を進めていただきました。



【給食の実食】



【海蔵地区文化祭】



【大谷台地区住民の集い】

③生徒と家庭、地域との関わりを深めるための活動

本校は生徒と保護者の関わりを深めるPTA活動を活発に行ってききましたが、コロナウイルス感染症拡大防止対策の関係で、令和2年度から4年度まで中止としてきました。コロナ禍が明け、制限は緩和され、以前と同様の活動をするかどうかを、PTA役員会でも議論となり、本部の判断で中止としたり、生徒の声もアンケートで聞き取ったうえで、中止としたりした活動もありました。コロナをきっかけに、生徒と家庭、地域との関わり方を考え直す過渡期になっています。

一方で、学校公開週間を学期に3回実施したり、地区市民センターの副館長やCS運営協議委員の皆さんに地域学習発表会の参観とその評価をしていただいたりしました。

来年度は、生徒と家庭、地域との関わりを深める手立てを検討していきたいと思えます。

④生徒と地域との関わりを深めるための活動

本校は各学年で、「総合的な学習の時間」を通して居住する地域を知るとともに、地域に愛着と誇りを持つことをねらいとした学習を実施しています。

1年生は居住する地域について学習します。今年度は「福祉」をテーマに学習を進めました。福祉に関する講演を聞くことをスタートに、グループで調べ学習をしたのちに、地域へ出かけユニバーサルデザイン化されている場所や、バリアフリーになっていない場所などを調査してきました。発表会では各グループで調査してきた内容をしっかりと発表し、各クラス代表グループの発表会では、上記に記載の通り、地区市民センター副館長やCS運営委員の皆さんに参観・評価していただきました。

2年生は、12月に、地元を中心とする事業所等の協力を得て、「職場体験学習」を3日間実施しました。職場での体験を通して働くことの意義や、楽しさ、大変さなど、それぞれが感じ取ってきました。その体験の様子を各々がレポートにまとめました。また、各種団体の協力を得て、地区防災教室を実施しました。

3年生は例年、「海蔵川浄化活動」や「若生会との交流」を行っていましたが、コロナ禍をきっかけに、継続が困難となり、開催されませんでした。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

CS運営委員による授業参観や学校評価アンケートでの意見において、生徒の挨拶の良さや落ち着いた雰囲気での授業の様子、タブレット学習の日常化などについての良い点を評価いただく一方で、施設の老朽化による不便さや教室の狭さと使い勝手の悪さなど、ハード面での教育環境整備が進まないことについての意見を多くいただきました。

生徒がより良い環境で教育が受けられるよう施設・設備と運用の両面から改善を図る必要があります。施設・設備面については、市教育委員会への要望を行い、修繕等を進めていきます。また、教職員のICT活用や授業の研修を通して、より効果的な運用を目指します。

不登校生徒への対応についても意見をいただきました。CS運営委員は、学校や教職員の状況、全国的にも増加にある状況を理解していただいているうえで、校内で不登校生徒の対応が

できる居場所が必要ではないかとの意見をいただきました。山手中学校でのより良い取組につなげていくための客観的な視点での意見ですので、真摯に受け止め、しっかりと進めていく必要があると考えています。



【CS運営委員による授業見学】



【CS運営協議会会議の様子】

コロナ禍をきっかけに、保護者が学校に来る機会が少なくなりましたが、令和5年5月にコロナウイルスが5類相当となり、制限が緩和されていく中で、学校公開週間や体育祭、文化祭など、保護者が来校する機会が少しずつ増えてきました。また、学校HPでも生徒の活動の様子を頻繁に掲載していく中で、保護者からも学校での様子がわかるようになったとの声をいただいております。

学校施設・設備が老朽化する中で、設備の更新や校舎をはじめとする施設の抜本的な整備についてのご意見は、本年度だけではなく毎年のようにたくさんの声をいただいています。市教育委員会とも連携・協力しながら、限られた予算の中ではありますが、安全面等を最優先としながら、可能な限り修繕を進めているところです。

また、学校の主たる活動である学習（教育）活動については、令和3年度から全国の中学校で新学習指導要領が完全実施されるようになり、授業や評価の改善が進められています。観点の内容に「主体的に学習に取り組む態度」という項目があるように、目まぐるしく変化する社会に対応するため、中学校での学習内容も日々改められています。今後、暗記力や速く正確な計算力はAIに任せる時代となっていくともいわれています。そのような時代の変化に対応する力をつけられるよう、新学習指導要領の趣旨に沿い、令和4年度から学校教育目標を「人間性豊かで、自分で考え、行動できる生徒を育成する」に変更し、授業を含むあらゆる教育活動の中で意識して取り組んできました。具体的には、論理的思考力の向上や主体的・対話的で深い学びとなり、学び続けられる生徒を育成すべく授業にあたる教職員の授業力向上を目指し、研修を深めて参ります。また、保護者の皆様には学校と二人三脚で生徒たちの学力向上を図ることができるよう、家庭での学習習慣の定着にご協力をいただきますようお願いいたします。

また、学習面においても、自分の将来を見据えたキャリア教育につなげていけるよう授業のみならず、学校教育活動全般を通じて学びの大切さを伝え、生徒一人ひとりの充実につなげられる教育活動を進めてまいります。

生徒からのアンケートでは、学校生活が充実していると感じている生徒が多数いる一方で、自己肯定感が低く、自信につなげられない生徒もいます。一人ひとりに思いに寄り添いながら、ご家庭とともに、生徒の成長につなげられる教育活動を進めていきたいと考えています。

3 今後に向けて

(1) コミュニティスクール（運営協議会）の位置づけの明確化

運営協議会委員だけでなく、教職員・PTA役員・保護者・地域の方々がコミュニティスクールの位置づけや役割を理解し、連携をより強化し、活動の活性化を進めていきます。そして、学校と地域が協働し、生徒の健全な育成を行っていきます。「山手中学校区で育ててよかった」と誇りに思える生徒を育てていきます。

(2) 明らかになった課題の解決に向けて

- ① 令和5年5月から、新型コロナウイルスが5類に移行され、さまざまな制限が緩和されました。学校教育活動においても、感染症対策は年頭に置きながらも、コロナ禍以前のように、保護者や地域に対し、学校公開や体育祭、文化祭などの行事への参観もしていただきました。一方、コロナ禍をきっかけに、以前と全く同じような形態での教育活動ではなく、新たな形での教育活動も進められています。例えば、一人一台のタブレット端末による授業や、リモートを活用した方法など、コロナ禍以前にはなかった教育活動です。このような一例からも、以前の形態に全て戻すのではなく、新たに得た教育活動の手法も活用しながら進めていくフェーズにあると考えられます。もちろんすべてを変えるのではなく、教育の根幹にある学力の保障やコミュニケーション力の向上、自己肯定感を育むこと、自分で考え判断することなど、必要なものを大切にしながら、教育活動を進めていきたいと考えます。

運営協議会委員による学校関係者評価では特に、「生徒は、授業をていねいに分かりやすく教えてもらっている」3.5（前年比0.7増）、「生徒は、学校生活を楽しく送っている」3.3（昨年度比0.2増）、「学校は、いじめ等のない温かい人間関係作りに取り組んでいる」3.6（昨年度比0.1増）、「生徒は、社会のルールともに、時や場所に応じた言動や挨拶について学んでいる。」3.6（前年比同）、と示されるように、前年度と同様、もしくは前年度よりも高い評価をいただきました。本校教職員の行動指針にもあるように、引き続き教師自ら挨拶と言葉がけを日々実践し、地域の方々と共に生徒を見守り、より「笑顔」の溢れる学校づくりを目指していきたいと考えます。
- ② 山手中学校の周辺には幹線道路が通り、生徒の登下校時の交通量も大変多い状況にあり、加えて学校周辺において登下校時に生徒の人流が集中する箇所もあります。今年度も自転車通学生徒と自動車との接触事故が起きました。また、これまでも小杉地区の交差点や山手通り歩道の通行の仕方等について危険であると指摘されています。そこで今年度も、一斉下校の際に学年別による時差下校を実施しました。また、武道場北側の敷地に自転車用通路を作り、自転車通学者と歩行者とを分けることで、懸念されていた交差点での信号待ちによる生徒の密集が以前に比べてさらに解消されることとなり、安全に下校することにつながりました。今後も引き続き、四日市北警察署や阿倉川交番など関係機関とも連携をとりながら、学級や学年、集会での注意喚起をするとともに、学校だよりや学校HPなどでも情報発信をしながら、ハード面ソフト面ともに生徒の安全対策を進めていきます。
- ③ 今年度、山手中学校生の携帯電話やスマートフォンの所持率は、1年生92%、2年生90%、3年生93%で、全学年とも90%を超える所持率となっています。また、今年度もSNSをめぐるトラブルは起きており、ネットモラルに関する指導を継続しています。引き続き、CS運営協議会委員や関係団体の協力も得ながら、使用方法について、指導を進めるとともに、学校だよりや学校HP等も活用しながら、情報端末機の正しい利用の仕方について啓発活動を続けていきます。
- ④ 例年のことながら、運営協議会・保護者・生徒・教職員すべてにおいて、学校評価アンケートの「学校施設・設備の環境整備」については、厳しい評価（運営協議会2.1、保護者2.8、生徒3.1、教職員2.5）となっており、特に運営協議会からの評価は昨年同様厳しいものとなりました。今年度も教育委員会や運営協議会委員の働きかけにより、長年改修要望をお願いしてきた箇所について改修工事を少しずつ進めていただきましたが、昭和40年代に建てられた校舎のため、使いづらい面が多々あることには変わりありません。今後も市教育委員会に要望するとともに、地域の方々の協力を得ながら危険個所を優先的に改修するなど、少しずつ改善していきたいと考えています。

令和5年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立 山手中 学校

委員長 長谷川 仁志

校長 山下 英樹

| 月 | 協議会の開催 | 活 動 内 容 |
|----|------------|--|
| 4 | | |
| 5 | 第1回CS運営協議会 | <ul style="list-style-type: none">・委員長選出・学校づくりビジョンの確認・令和5年度年間活動計画 |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | 第2回CS運営協議会 | <ul style="list-style-type: none">・学校からの報告（学校行事や部活動などの学校の様子） |
| 10 | | |
| 11 | 第3回CS運営協議会 | <ul style="list-style-type: none">・学校からの報告（学校行事や部活動などの学校の様子）・学校評価アンケート・給食の実食 |
| 12 | | |
| 1 | | |
| 2 | 第4回CS運営協議会 | <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の活動と反省及び評価・次年度の学校づくりビジョン・次年度の主な学校行事の確認 |
| 3 | | |